

振返つてエデプト人が水の中でもがいて居るのを見て、彼は手を鼻に上げ、指を伸べて聲高く斯う叫んだ、『バロ、バロ、汝今何處に在りや』と。無生物より有生物に變つた勞働も又、此モーゼの如き優越な地位にあることを發見するであらう。

勞働商品説——即ち賃銀制度——は、商人に取つては、其利害を擴張する直接の刺戟である。勞働者に對しては所謂賃銀の鐵則を利用し、製造家に對しては其利益を制限し依て彼はあらゆる方面に於て社會を誅求する位置に立つて居る。通例取引商として知られて居る第一の仲介者は、二割乃至三割以下の分前では満足しない。通例小賣商として知られて居る第二の仲介者は、更に三割の利益を要求する。斯くて消費者は、一方に於ては仲介者に誅求せられ、一方に於ては製造業者に誅求されるのである。斯様にして賃銀制度の基礎の上に巨大な上建築が成立し、今や其負擔は、勞働者に取つて堪へ難き程度にまで達したのである。此分配の爲めの負擔がどれ程大きなものを示すには、一個の簡單な事實を擧げるだけで十分である。ペンネー・ディブリー氏は、倫敦の諸刊行物の廣告料のみの年收を一千萬磅と見積つて居る。氏は内輪に見て廣告費を一億磅と概算して居る。米國及び加奈陀に對する見積りは、二億五千萬磅である。一切を合計して米國及び歐洲の近代産業組織に對する費用の總額は、六億磅を幾らも下らない。明らかに之を支拂ふ者は消費者であり、然も彼は無我夢中で支拂ふのである。して見れば實質上の賃銀が下がつて行くのは不思議ではあるまい。そして地代、利子、及び利潤が躍進して行くのに不思議があらうか。一九〇〇年より一九一〇年にかけて、商務院の賃銀指數は、僅かに一分二厘しか昂騰して居ないが、小賣食料品指數は、殆ど一割昂

騰して居る。同じ期間に於て、所得税の爲めに調べられた所得額は、二億一千七百萬磅、即ち二割六分の増加を示した。

是等の意味深長な數字の中に包含せられる經濟上の浪費に就ては、容易に浩瀚な書物を書くことが出来る。廣告の爲めの一年一億磅の費用——生産者及び消費者に懸かる負擔——や、純粹な生産的目的の爲めに用ゐらるべき勞力の誤用や、『廣告』の爲めに費される腦力や、廣告に依て繁昌し、廣告料を條件として讀者に『告知』を與へる新聞の爲めに起る社會の精神的墮落等の、精神的消極的浪費を一考せよ。が此問題は諷刺家と預言者とに任ねた丈で澤山である。

所で、商人は何等かの實質的な經濟上の職分を持つて居るだらうか、といふ疑問が猶殘つて居る吾人は、商業上に於ける商人の地位は抗爭し難きものであるが、經濟上から見れば、彼は亂暴極まる多くの浪費の原因であると、躊躇無く答へることが出来るのである。吾人は製造家を善良な目的に利用することは出来る。鐵道も生産上の純粹な要素と看做すことが出来る。然し商人はどうか。商人は賣淫制度を維持する最も有力な要素であり、白奴(醜笑婦)賣買業は、其一小部分たるに過ぎない産業的賣淫の媒介者である。分配の職分は、生産と分離することに依て墮落せしめられ、人智の知り得る限りに於ては、組織せられたる生産者が、組織せられたる需要者と直接交渉するに至らざる限り、生産分配の關係は正當な状態に復することが出来ないものである。然しながら生産者も需要者も、賃銀制度の基礎の上に於ては、經濟的に組織されることが出来ない。何故ならば、賃銀制度にして存すれば剩餘價值が産出せられ、而して剩餘價值は、資本金生産者と資本金分配者と